

福浜議員要望項目一覧

令和5年度11月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(1) 脱炭素化に向けたEV車の普及促進</p> <p>ウクライナ情勢、円安等を要因としたガソリン価格の高騰は、この先も継続が推測されます。国の補助金継続は短期的にはありがたい一方で、脱炭素化を推進する中・長期の視点で見れば、EV車（PHEV、HEV、FCV 含む）転換への格好の気運を阻害している一面があることも否めません。</p> <p>昨年度の新車販売におけるEV車（PHEV、HEV、FCV 含む）の割合は52%と過半数を占めているものの、依然として半数近くをガソリン車とディーゼル車が占めています。</p> <p>一人あたりの自動車保有台数が多い本県だからこそ、EV車購入に対する国の助成を、さらに上積みするよう要望していただくことをお願いします。</p>	<p>EV車の普及促進は全国的な課題であることから、全国知事会において購入補助や税優遇の拡充を国に要望しているところであり、引き続き、他県とも連携して補助の拡充を要望してまいります。</p>
<p>(2) 台中市との交流促進</p> <p>本県と台中市との友好交流協定の締結から5周年の節目を迎え、年明けにはタイガーエア台湾による将来の定期便化を目指した長期チャーター便の運航も計画されています。</p> <p>コロナ前、2019年の日台間での往来数は、日本から台湾が217万人。台湾から日本が489万人となっており、人口比では、台湾人の5人に1人が訪日している一方、日本人は100人に1.75人しか訪台しておらず大きな開きがあります。</p> <p>日台観光サミットが本県で開催される2025年に向け、また定期便化とその持続可能性を高める上で、交流促進の環境が整った今こそ、県民に「台湾・台中市を訪れたい」と思ってもらえる情報発信が必要と考えます。県内マスメディア等に協力を求め、台湾・台中市の魅力が県民に伝わる施策を要望します。併せて県内の高校（私学含む）に対し、修学旅行先として台湾・台中市を選択してもらえような支援策を要望します。</p>	<p>台湾台中市とは、2018年11月に友好交流協定を締結して以降、観光、サイクリング、青少年を中心とした分野において交流を推進しており、今年度は中学生サマースクール団派遣や鳥取台湾合同絵画展開催など、台中市に対する県民理解を深める事業を実施した。今後も、台湾との定期便就航等に向けた施策も含め、台中市の魅力を情報発信していく。</p> <p>交流事業等の行先の選択肢の一つとして候補に挙がるよう、県立高等学校長会や私立学校協会等に対し、チャーター便の運航等の情報を周知していく。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(3) アートピアとっとり行動指針の改訂</p> <p>今年度が最終年度となる「アートピアとっとり行動指針」について、「県内あらゆる場所でアートが花開く、創造性と活力に満ちた鳥取県」の実現に向けた取組の方向性を具体化する3本柱とは別に、もうひとつ、(仮題)『アートで楽しむ～人をつなげる、人とつながる～』という要素を加えてみてはいかがでしょうか。</p> <p>スポーツが、プロのように競技力向上と高齢者のグラウンド・ゴルフのように仲間とワイワイ楽しくやる遊びの延長のような生涯スポーツ的要素が定着していることと比較すると、アートにはどうしても敷居が高いイメージがつきまといまいます。「それなりのレベルでないと、誰かにみてもらうのが恥ずかしい」という側面があるのではないのでしょうか。</p> <p>しかし、例えばWEB上では、ひとつの楽曲を元に様々な人々が世代を超えて、振り付けを行うなどして気軽に楽しんでいます。これも立派なアートです。1つのテーマにより、人をつなげる、人とつながる力がアートにはあるということです。</p> <p>ネットの発達で「社会の分断」を生じさせている現代だからこそ、障がいの有無や価値観の違い、異なる世代の方々が、「アートでつなげる、アートでつながり」、楽しさを共有する中で、相互の理解を深め、社会貢献や共に社会を創るという考え方を折り込み、施策に反映させていただくよう要望します。</p>	<p>現在の「アートピアとっとり行動指針」においても、柱である「とっとりの「アート」で元気に～地域づくり～」の中で、「アートを活かした交流の創出や共生社会の実現を図る取組の推進」を目標として掲げており、議員の仰るように多様な方々がアートを通じて相互理解を深めることは重要であると考えている。</p> <p>今回の議員の御提案も踏まえながら、文化芸術振興審議会において現在進めている次期「アートピアとっとり行動指針」の検討を進めてまいりたい。</p>